



私達の地球を 少し冷やそう

第36回

期待の「エコプロダクツ展」 中小企業の知恵が楽しみ

財団法人 地球人間環境フォーラム専務理事 **平野 喬**

今年はいPS細胞研究者の山中伸弥京大教授のノーベル医学・生理学賞の受賞で、日本国民の多くが元気づけられ、大いに自信を取り戻したのではないでしょう。山中教授のお人柄にもよると思いますが、心温まる気持ちと未来に明るい光を見て、日本の医学、科学技術の水準の高さに誇りを感じました。

日本の環境技術の高さを知るための恒例のイベントが、12月13日から15日まで、東京・ビッグサイトで開かれます。ご案内が遅くなってしまいました。ご案内がなかったら是非、のぞいてみてください。「もっとグリーンに、もっとスマートに」をテーマにした第14回エコプロダクツ展で、18万人の人が訪れる日本最大のエコ製品、サービスの展示会です。日本の最先端のエコ技術を駆使した製品が一堂に紹介されるほか、環境や業界の団体、大学などもブースを出しています。

私どもの財団では、このイベントに連動して、エコプロダクツ大賞という表彰制度の運営事務局を担当しており、毎年環境に配慮した優れた製品・サービスに関係省の大臣賞を授与し、同会場で表彰式を行っています。大企業と中小企業を対象にした部門があり、これまで表彰された大企業の製品の中には、ハイブリッドのエコカーやLEDの照明、水素電池など、環境技術をリードし、世界中で大ヒットしたエコプロダクツがあります。

今年の注目「シラスで壁材」

一方、私が楽しみにしているのは中小企業から寄せられるアイデア商品の数々です。昨年は、沼津の干物屋さんの開発した深海魚の干物シリーズが表彰されました。漁師さんのほとんどは底引き網に引っかけた深海魚は捨ててしまうのですが、その干物屋さんには伝統の干物づくりの技術と知恵を駆使して、深海魚もおいしい干物に加工してネットで販売することにしました。大変おいしいと好評で、貴重な漁業資源を守り、海の豊かさを消費者に知ってもらうことにもつながりました。

今年も中小企業の知恵と創意をいかなく発揮した製品に出会いました。宮崎県から鹿児島県にかけて広がるシラス台地は火山灰が堆積した土地で、豪雨などに見舞われると崩れなどを引き起こし、シラスはやかかいものの自然の産物とされてきました。

このシラスを建材として利用しようと目をつけたのが、横浜に本社を置く建材メーカーで、中小企業部門の賞に輝いた「スーパードライ白洲そとん壁W」などシラスの壁材シリーズを開発しました。シラスは真っ白な微粒子で天然のセラミックとも呼ばれ、耐熱性、湿度の調節機能、脱臭効果、化学物質の吸着効果と、壁材としては大変な優れモノであることがわかりました。断熱効果が高いことから、家

庭の節電にも大いに貢献しています。しつこい壁のような美しさもあり、国内だけでなく海外からも引き合いがあるそうです。

高品質で世界をうならせた日本製品は、その機能や品質の高さから、日本でしか使えない、進化しすぎて外部から取り残されてしまったとして「ガラパゴス現象」などと揶揄されることがあります。品質より値段の安さを売り物にした家電製品などが世界の市場を席巻していますから、日本人らしい手の込んだ、きめの細かい製品に出会うとホッとしてみたいです。

エコプロダクツ展で紹介されたノンフロン冷蔵庫、節水型の洗濯機が日本の経済成長をけん引したことがあります。医学とともに、環境技術が日本を元気にしてくれると信じて新しい年を迎えようと思います。よいお年を。

財団法人 地球人間環境フォーラム

環境省所管の公益法人。地球環境問題の科学的調査研究を目的に1990年に設立。

国立環境研究所・地球環境研究センターの研究サポート、研究成果の普及・啓発などのほか、月刊機関誌「グローバルネット」を発行。



昨年も18万人を超える人たちが来場し、最先端の環境技術やサービスを見学した（「エコプロダクツ2012」ホームページから）